

「1次予防の社会的仕組み」を考える



「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」

2023年度公募 提案募集に向けたワークショップ

話題提供
稲葉 陽二
2023年3月29日



「なぜ1次予防と社会実装にこだわるのか。どこまで求められるのか。」についての私見

孤立と社会的孤立との違い。孤立と孤独との関係

社会実装はどこまで求められるのか

事例

企業不祥事
ケアする学校
保健指導員
自殺

コールマンのボート

社会実装：ミクロ・マクロ＝リンクの重要性

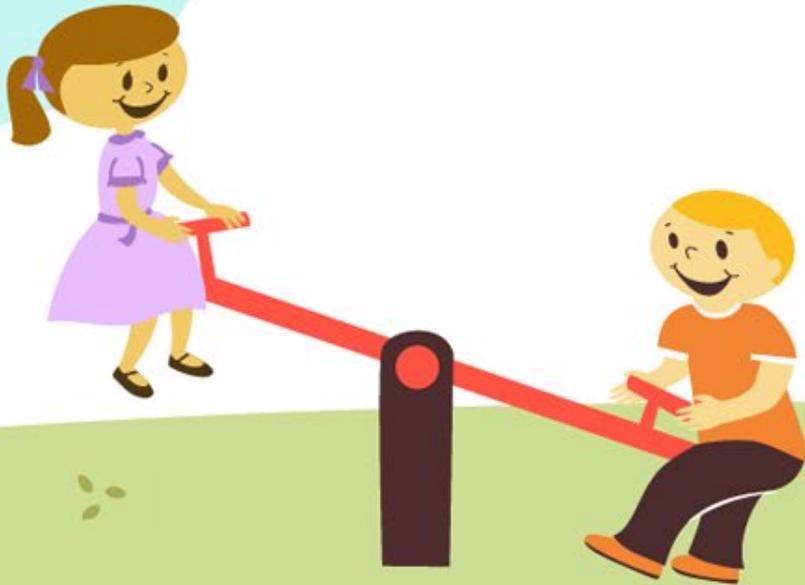
なぜ1次予防なのか

日本経済・社会を覆う違和感—社会の理不尽を個人が負担する理不尽



なぜ1次予防にこだわるの か

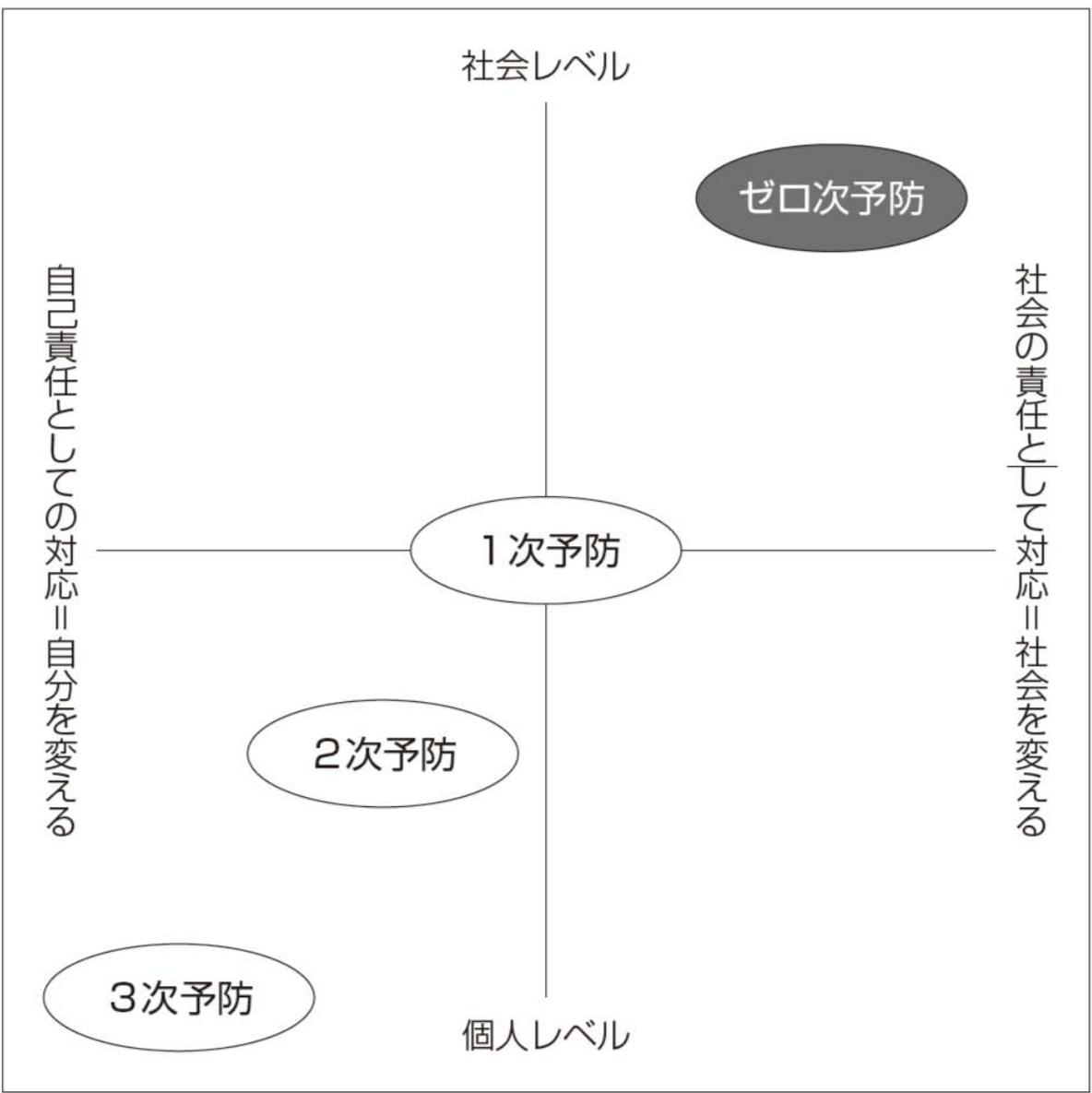
日本経済・社会を覆う違和感—
社会の理不尽を個人が負担す
る理不尽



個人の責任か社会の責任か

「社会的孤立・孤独」の意味

孤立は本来社会的なのにわざわざ「社会的」を付した



(出所) 稲葉陽二(2022)「ゼロ次予防で孤独・孤立をなくす」『月刊自治研』vol,64 no.754, p.29



日本の違和感 全くの私見

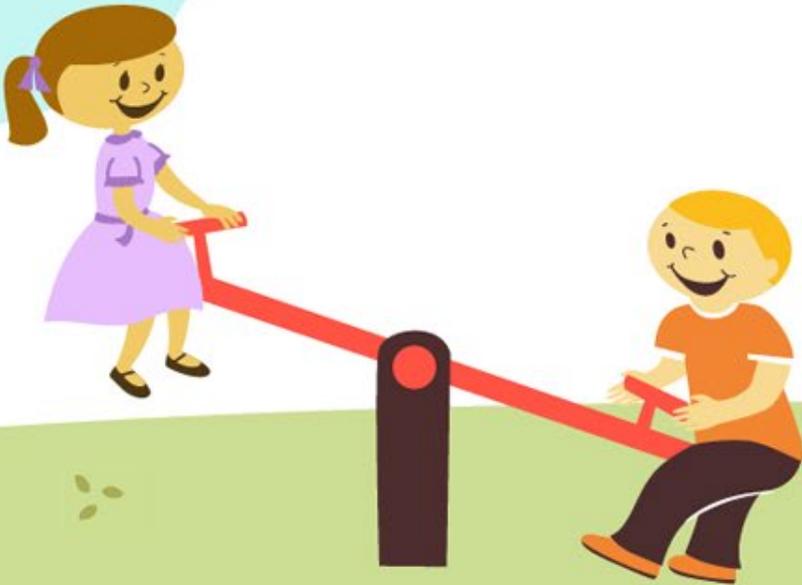
- ピエール・ブルデュー『世界の悲惨』が公刊されたのは1993年のことであった。その日本語訳(第1分冊)の帯には「社会は、表立って表現されることのない苦しみであふれている」とある。
 - Bourdieu, P.(sous la direction de)(1993) La Misere du Monde, Les Editions du Seuil(=2019-第I分冊,2020-第II、III分冊, 荒井文雄・櫻本陽一監訳、『世界の悲惨』藤原書店)
- 現状も、「社会は、表立って表現されることのない苦しみであふれている」のでは。それどころか、「社会は、見えない苦しみであふれている」のではないか



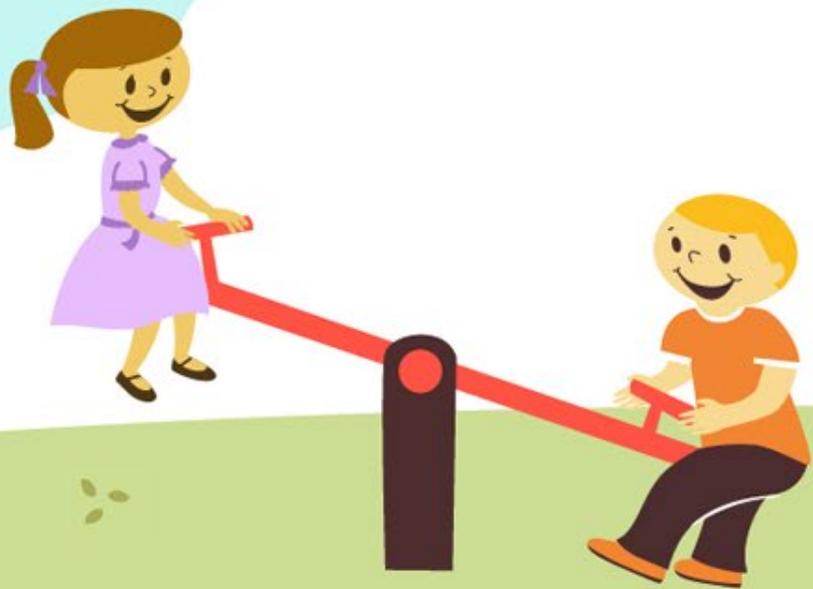
なぜ社会実装なのか

ミクロ・マクロ=リンクの重要性

ミクロレベルだけの分析では問題の
解決につながらない



コールマンのボート



第1章メタ理論：社会科学における説明（邦訳pp.17-50）

マクロ水準命題とミクロ水準命題：宗教教義の経済組織への影響（Coleman 1990 p.8=28）



- (1)プロテスタントの宗教教義はその信者の間に、ある一定の価値を生み出す。
- (2)一定の価値を有する諸個人は経済行動に対してある種の志向をとる。
- (3)経済行動に対するある種の志向は、社会のなかに資本主義的経済組織が生起する助けとなる。

社会システムの行動を3要素から説明（邦訳p.53 第2章）

- ・行為者の制約ないし志向へのシステム特性の影響
- ・システム内の行為者の行為
- ・システム行動をもたらす行為の組み合わせと相互作用

稲葉注：「コールマンのバート」は、ミクロ・マクロリンクの記述。社会関係資本はミクロレベルでもマクロレベルでも存在

（出所） Coleman, J. (1990) Foundations of Social Theory, Harvard University Press (=2004, 千守隆夫訳「第1章メタ理論：社会科学における説明」久慈利武（監訳）『社会理論の基礎 上』青木書店pp.17-50) より筆者作成

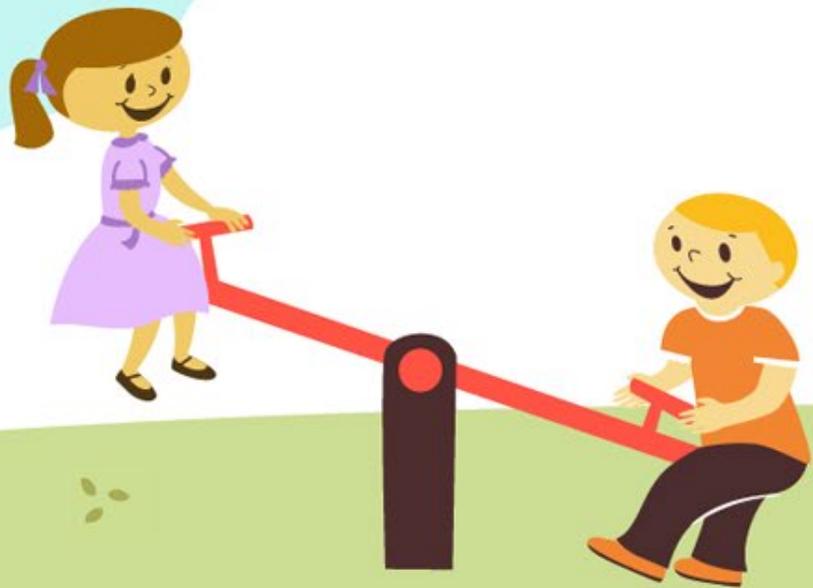


現場の理不尽は社会関係資本を知らないとみすごされやすい

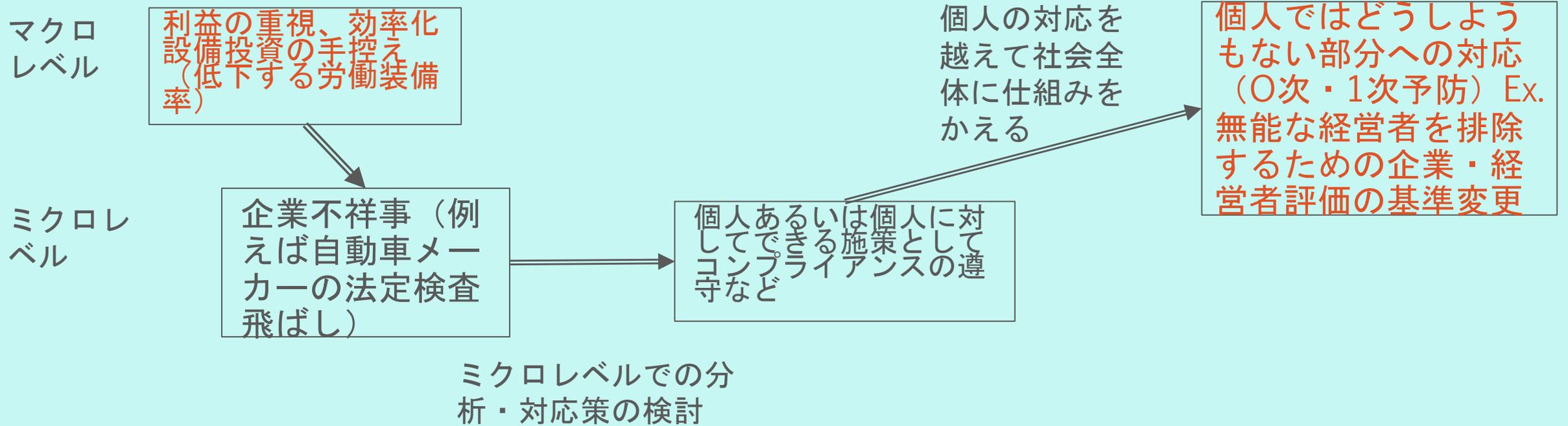
- 社会関係資本の世界は「関係」のなかで存在。個人のもつ「関係」は彼/彼女の生い立ちだけではなく、生まれ育った環境の歴史的・文化的な特性まで反映して幾層にも重層的に連なる。個人はだれでも社会関係資本という箱の中で生活している。箱の形は人によって様々だが、「関係」は個人レベルでも多様な形態があるし、一定の前提をおけば組織間でも存在する。従って「関係」は個人レベルからマクロレベルの前提まで重層的に存在しているが、個人はそれを意識しないで生活しているため、悪いことはすべて自己責任としてしまうことが多い。
- 社会関係資本は必然的に個人間から学校や職場などいくえにも重層的に存在するので、この「関係」を研究すれば、自然にミクロから組織内さらには組織間まで、自分が培ってきた他者との「関係」を意識することになる。このプロセスは、個人のもつ関係を洗い出すことになり、今まで無意識でいた関係性が可視化される可能性がある。



事例1 企業不祥事



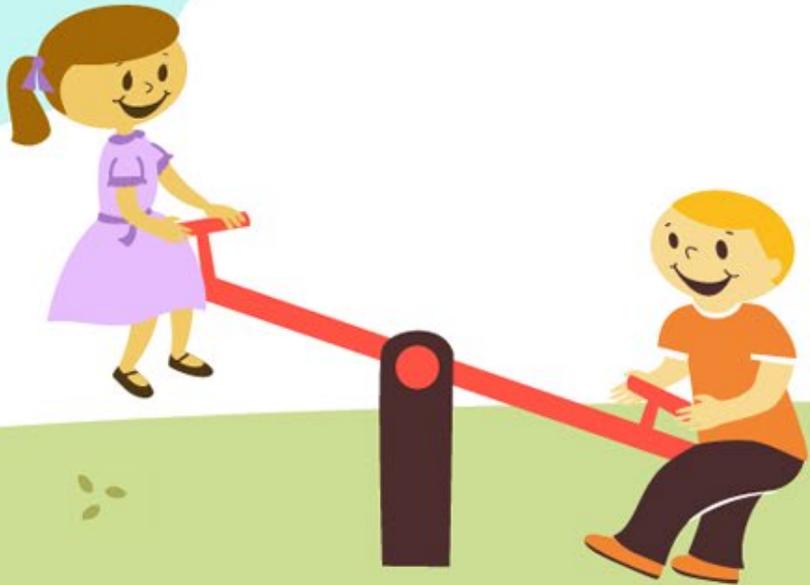
社会の理不尽の結果としての現場の理不尽 企業不祥事



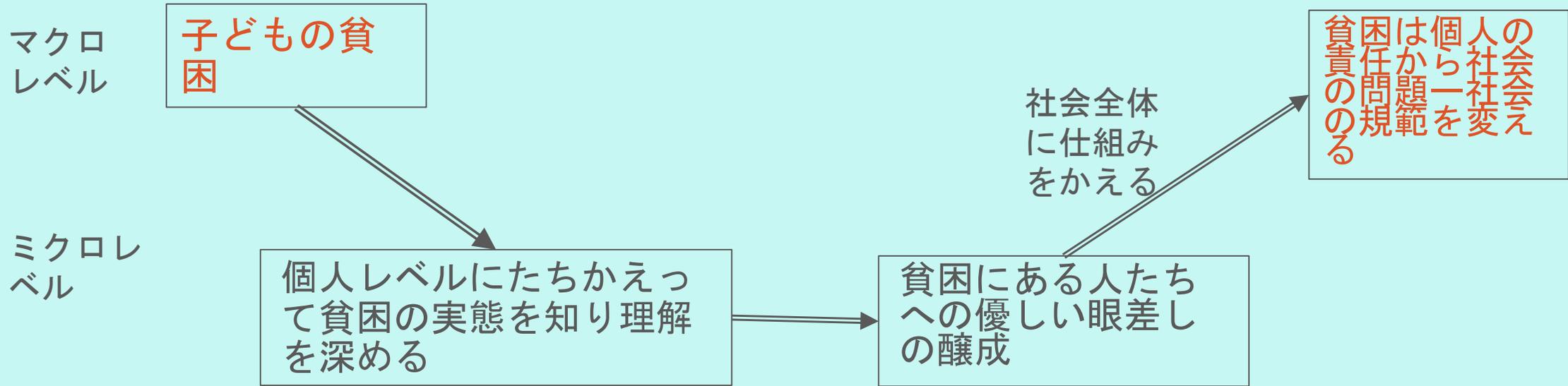
（資料）稲葉作成



事例2 ケアする学校



にじみ出し効果について 学校をケアする組織にかえる ことによって地域を変え、社会をかえる

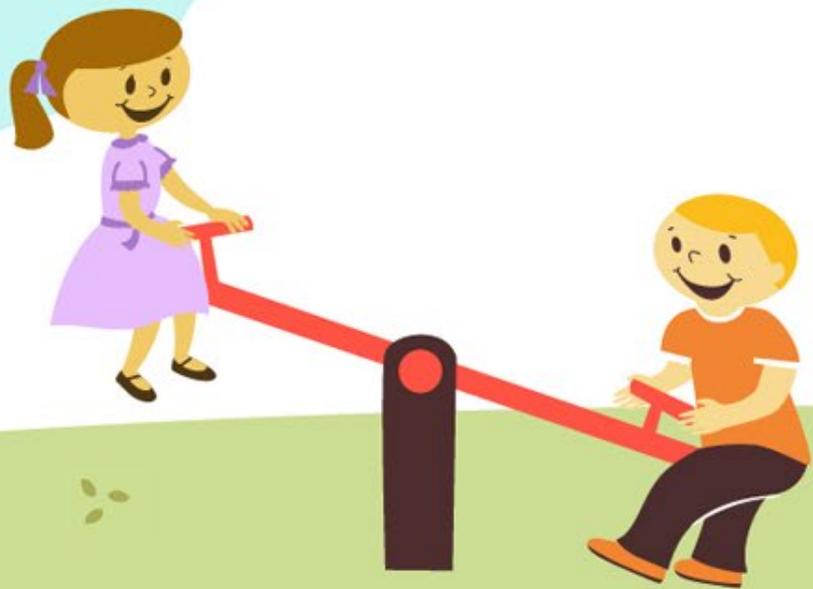


ミクロレベルでの分析・
対応策の検討

(資料) 柏木智子 (2020) 『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり』 明石書店、を参考に稲葉作成



事例3 保健補導員



にじみ出し効果について 保健補導員制度の普及

マクロ
レベル

疫病の蔓延・
高い乳幼児死
亡率

ミクロレ
ベル

現場の保健師の対応とそ
れにこたえる住民

高甫村保健補導員
制度

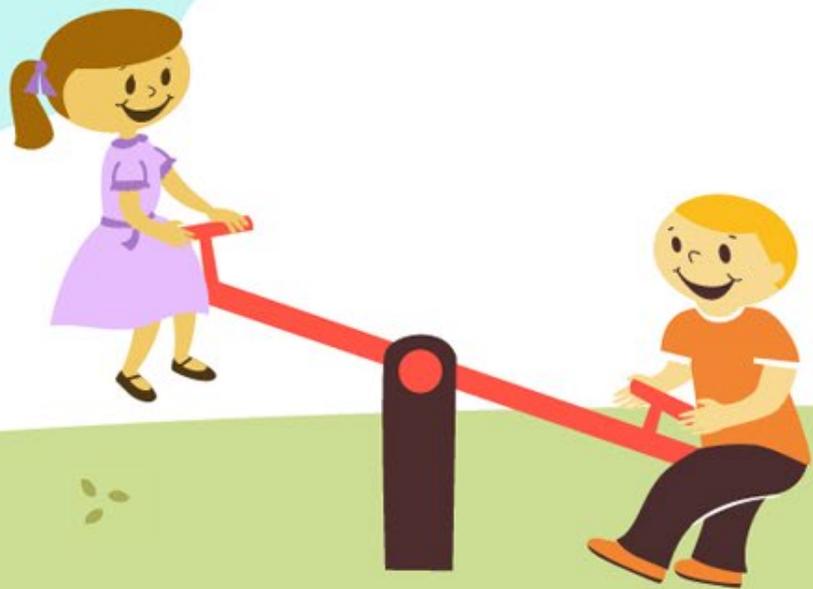
社会全体
に仕組み
をかえる

須坂市から
長野県、そ
して全国へ

(資料) 稲葉のフィールドワークにもとづき稲葉作成



事例4 自殺



個人ではどうしようもない課題への対応について 行政の対応の必要性を明らかにすることによって地域を変え、社会をかえる

マクロ
レベル

社会・経済構造の変化 経済構造の変化による就業構造の変化、核家族化による家庭の変化、などによる既存のネットワークの消滅

ミクロレ
ベル

自殺の蔓延

社会全体
に仕組み
をかえる

個人ではどうしようもない部分への行政の対応（0次・1次予防）

個人あるいは個人に
対してできる施策を
明確にする（2次・3次
予防）

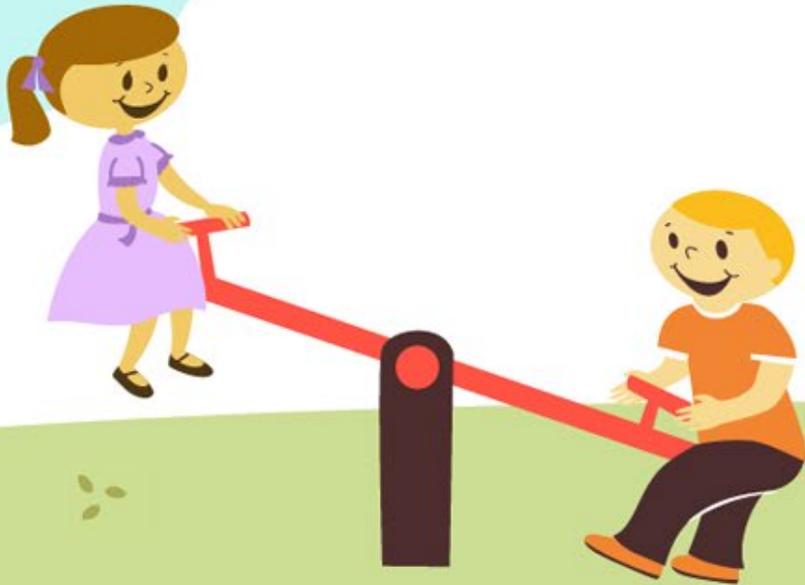
ミクロレベルでの分析・
対応策の検討

（資料）稲葉作成



社会実装はどこまで 求められるのか

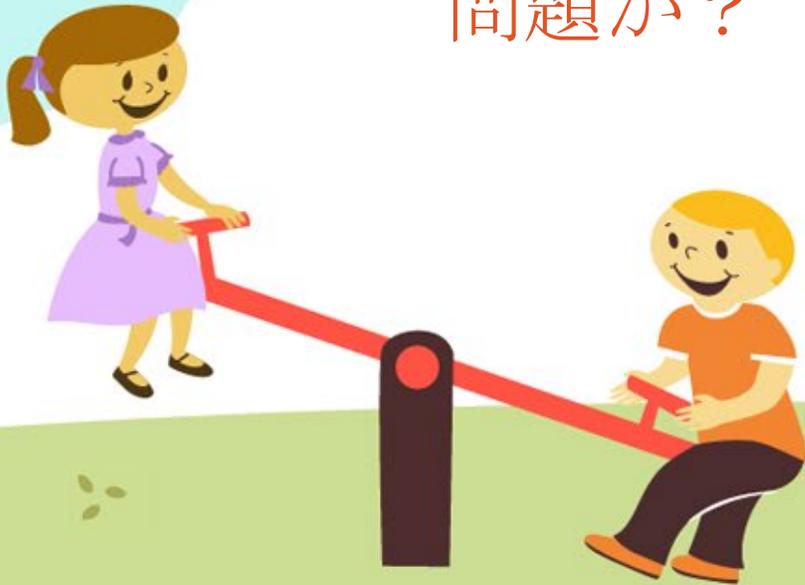
技術開発なら上市≒社会実装、だが社会科学で市場メカニズムが作用しにくい分野での社会的仕組みの実装はそれを実効性のあるものとして規範と制裁が必要で、時間を要す。仕組みの提案までで精一杯？



孤立と社会的孤立との違い

紐帯があるのに使わない、使えない。

親や子どもに迷惑をかけたくない。
これは個人の問題かそれとも社会の問題か？



孤立と孤独との関係 令和3年度 採択上田プロジェクトの成果

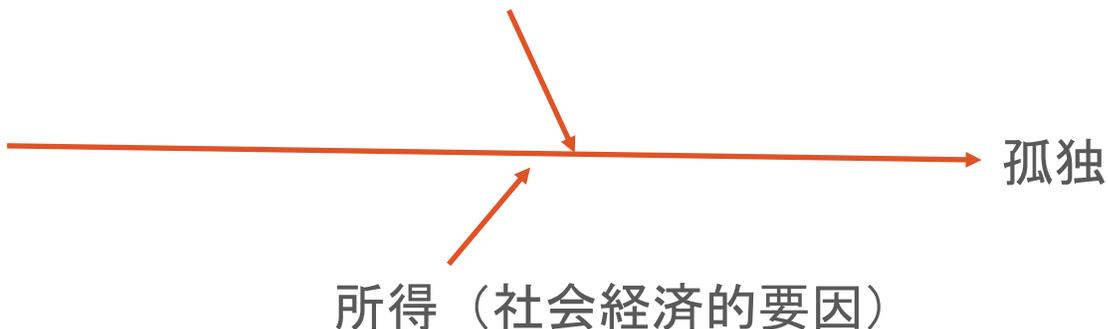
関係流動性

- ・ 新規の出会いの機会
- ・ 関係形成/解消の自由度

親友の数（社会的孤立）

所得（社会経済的要因）

孤独



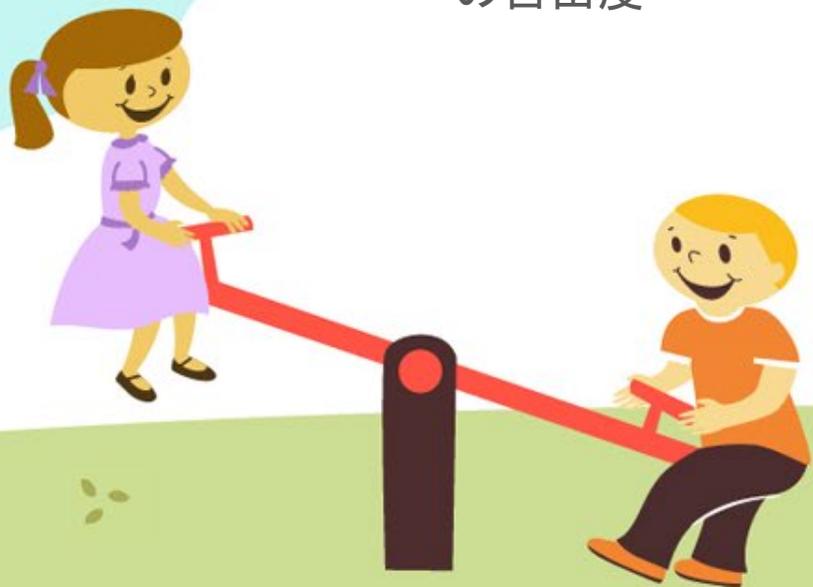
社会的孤立だけではなく文化的要因としての関係流動性（社会の硬直性）が孤独に影響を与えている可能性を示唆

Badman, R.P., R. Nordstrom, M. Ueda and R. Akaishi (2022) Perceptions of social rigidity predict loneliness across the Japanese population, *Scientific Reports*, 22:16073

<https://doi.org/10.1038/s41598-022-20561-5>

<https://www.nature.com/articles/s41598-022-20561-5>

オープンアクセス



ご清聴ありがとうございました。

